

2018.1.28 sun

14:30 open • 15:00 start

鳥根県民会館 中ホール

振付・演出
田畑真希

出演
カスヤマリコ

齊藤コン

新宅一平

中村理

田畑真希

田畑真希 ダンス公演

平成29年度公共ホール現代ダンス活性化支援事業

Tabatamaki

世界共通の身体言語。
あなたもアーティストと一緒に踊ってみませんか。

ダンスは誰とでもつながることができる。

{ 田畑真希 } ★
ダンスワークショップ

～田畑真希と一緒に踊ろう!～

2017.12.13 wed

18:30～20:30

ダンスは誰とでもつながることができる世界共通の身体言語。あなたもアーティストと一緒に踊ってみませんか。今回のワークショップでは、視覚障がいの方(15名程度)と一緒にペアになったり、一人で踊ったり自由なダンスを楽しみます。身体を動かしたい人、リフレッシュしたい人、ダンスに興味がある人、経験者も未経験者も大歓迎です!

会場:鳥根県民会館 2階 1・2多目的ホール
対象:小学生～大人の方 定員:先着15名

参加費
無料

＊お申込み方法

①氏名 ②年齢 ③性別
④連絡先:住所・電話番号・メールアドレス
を記入の上、下記FAXもしくはE-mailにてお送りください。

＊お申込み先

FAX 0852-24-0109 E-mail skk@cul-shimane.jp

お問い合わせ:鳥根県民会館 文化事業課 Tel:0852-22-5508 鳥根県松江市殿町158

主催:鳥根県、(公財)しまね文化振興財団(鳥根県民会館) 共催:(一財)地域創造

協力:社会福祉法人 鳥根ライトハウス、松江市視覚障害者協会、山陰網膜色素変性症協会、ユニバーサル鑑賞推進団体Reading ACT

2018.1.28 sun

14:30 open・15:00 start

島根県民会館 中ホール

＊チケット料金

一般前売1,000円(当日1,500円)

大学生以下前売700円(当日1,000円)

※3歳未満の入場はご遠慮願います。

※無料託児サービスあり。1/21(日)までにご予約ください。

＊プレイガイド

島根県民会館チケットコーナー／プラバホール／
今井書店グループセンター店／今井書店出雲店／
雲南市加茂文化ホール ラメール／雲南市木次経済文化会館 チェリヴァホール

開演前に公演を解説

中ホールに集合！

タッチツアーを開催！ 14:00より約20分間

視覚障がいの方を優先に、「タッチツアー」を開催。開演前に「色の話、余白の色」のステージの説明や、ダンスについての話を聞くことができます。参加することで、より本番を楽しんでいただけます。ご希望の方は、当日14時に直接会場(中ホール)にお越しください。

※当ツアーは無料ですが、参加するには「色の話、余白の色」公演チケットが必要です。

田畑真希 × 福井一尊

身体と美術のトークセッション

公演終了後に田畑真希氏と現代美術作家である福井一尊氏によるアフタートーク「身体と美術のトークセッション」を開催します。それぞれに作品を作り続けるアーティスト二人がジャンルを超えてトークを行います。表現を通じて繰り広げられる二人のコラボをお楽しみください。

福井一尊プロフィール

1976年夏生まれ。大学院在学中より、様々な素材を使った美術作品を制作し、発表を続けている。国内外での個展開催、企画展参加など多数。2016年エネルギー美術賞受賞。現在、島根県立大学准教授。

Tabata
maki

色の話



振付家・ダンサー・田畑真希による

こころと身体を解き放つダンスの世界

今年結成10周年を迎える
ダンスユニット「タバマ企画」
主宰・田畑真希によるダンス公演
「色の話、余白の色」。今ここでしか見られない
研ぎ澄まされた身体表現は必見です。
また、本作品には地元出演者として
松江市在住の視覚障がい者2名も出演します。
それぞれに身体条件の異なる出演者から
溢れる動きや表現は、観る者の心を揺さぶり、
さまざまなイメージを喚起させます。
しなやかかつエネルギー溢れるダンサーが
身体で語るダンスの世界を、ご期待ください。

Dancer

{ 出演 }

カスヤマリコ

齊藤コン

新宅一平

中村 理

田畑真希

{ 地元出演 }

清水かおり

渡辺栄子

{ 衣装 }

中本淳子



{ 田畑真希 } プロフィール

タバマ企画主宰。3歳からクラシックバレエを始める。更なる表現を迫るため桐朋学園短期大学演劇科に入学。様々なジャンルの身体表現を学ぶ。2007年より自身の作品を創り始める。滑稽なまでにガムシャラに、ユーモアを散りばめながら丁寧に時間を紡ぐ作風には定評があり、国内外で精力的に活動中。7カ国18都市にて作品を上演し好評を得る。近年は様々な世代を対象としたワークショップを展開し、性別、年齢、経験などの差異を超えて、誰もが楽しみながら出来る身体表現の促進を目指す。